

2010年のコンピュータウイルス届出状況

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：藤江 一正）は、2010年1～12月のコンピュータウイルスの届出状況をまとめました。

1. 届出件数

2010年の年間届出件数は13,912件と、2009年の16,392件から15.1%の減少となりました。大規模な感染拡大を引き起こす大量メール配信型のウイルスが出現していないことから、届出件数が年々減少しているものと推測されます。

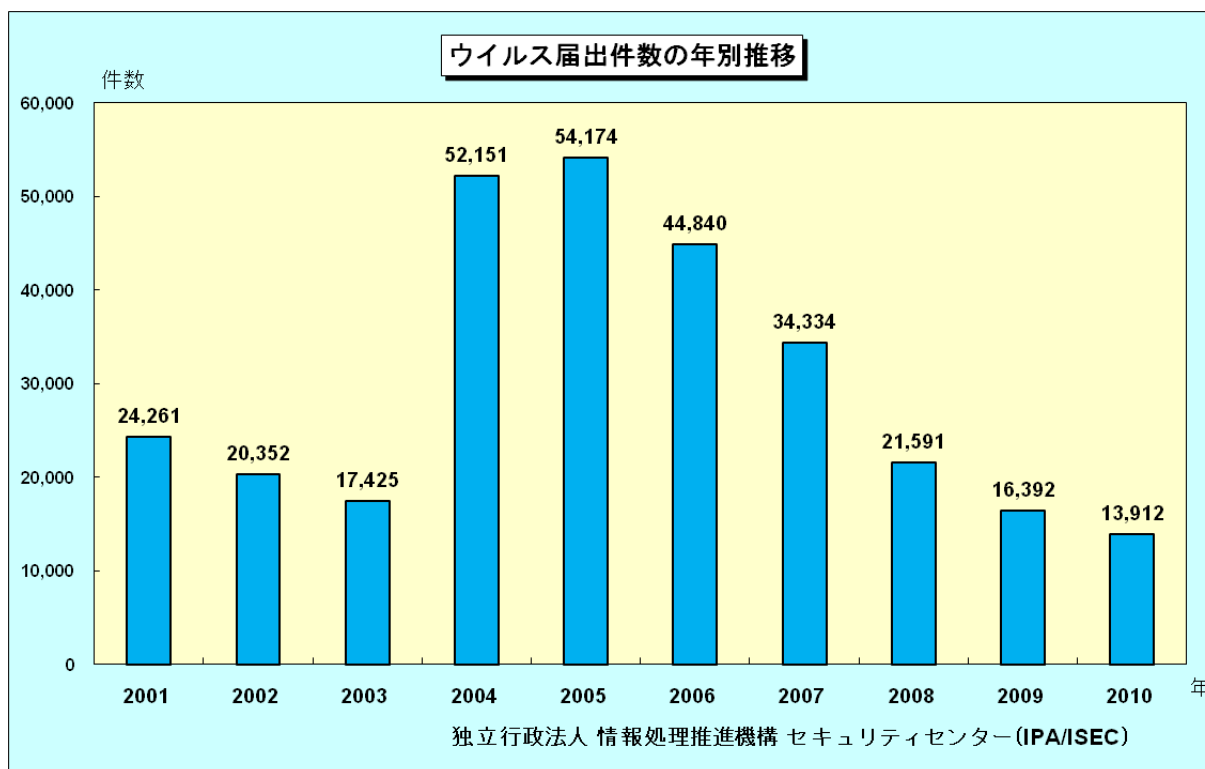


図 1-1：ウイルス届出件数の年別推移

2. 届出ウイルス

届出されたウイルスは101種類（2009年125種類）で、そのうち2010年に初めて届出されたウイルスは5種類（2009年9種類）でした。

届出ウイルスのうち、検出数の多い順は上から、**W32/Netsky**、**W32/Mydoom**、**W32/Mumu** となっています。**W32/Netsky** は、2004年以降、毎年、最も多くの届出が寄せられており、検出数でも大きな割合を占めている状況が続いています。また、**W32/Mydoom** は継続して同程度の検出数が寄せられています。

その他、**W32/Mumu**（1月～3月）、**W32/Waledac**（1月、8月）、**W32/Koobface**（5月）、**W32/Autorun**（7月）など、短期的に検出数が多く寄せられた月がありました（図 2-1 参照）。

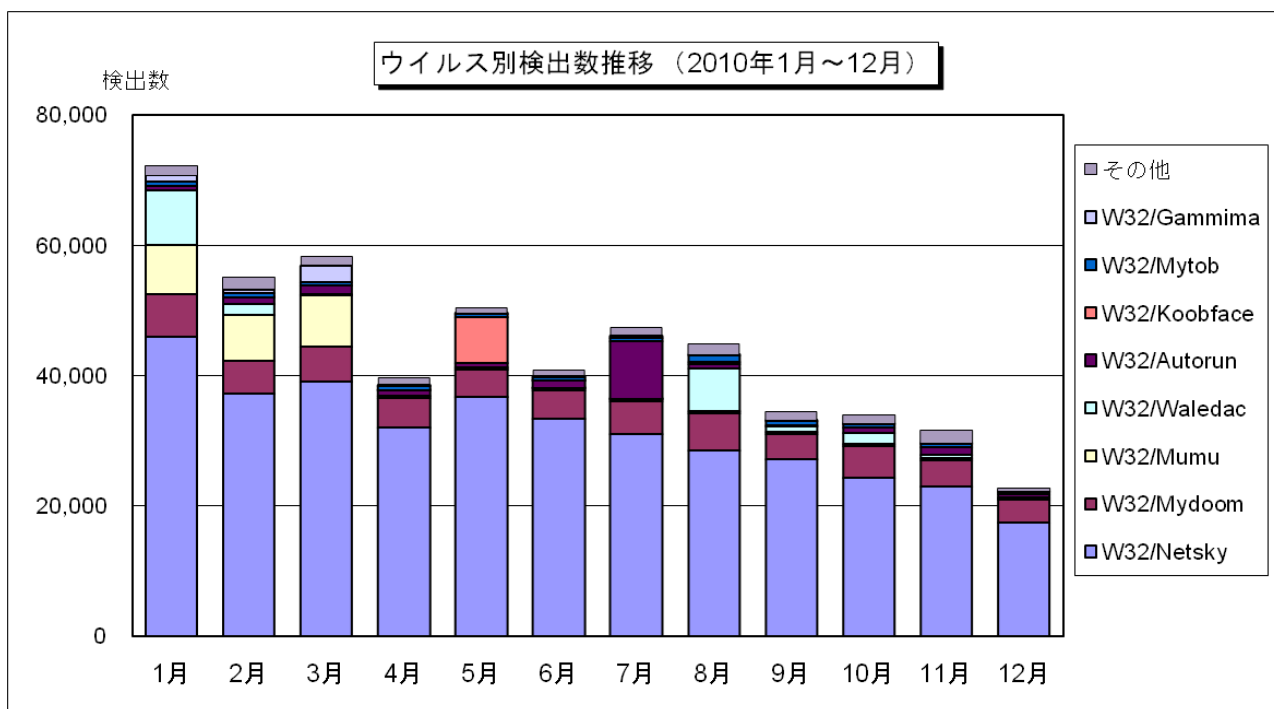


図 2-1 : ウイルス別検出数の推移

ウイルス別届出件数推移を見ると、**W32/Netsky**、**W32/Mydoom**、**W32/Autorun** の届出が多く寄せられています。届出件数は全体的に減少傾向にあります。W32/Netsky は、ほぼ横ばいでの推移となりました (図 2-2 参照)。

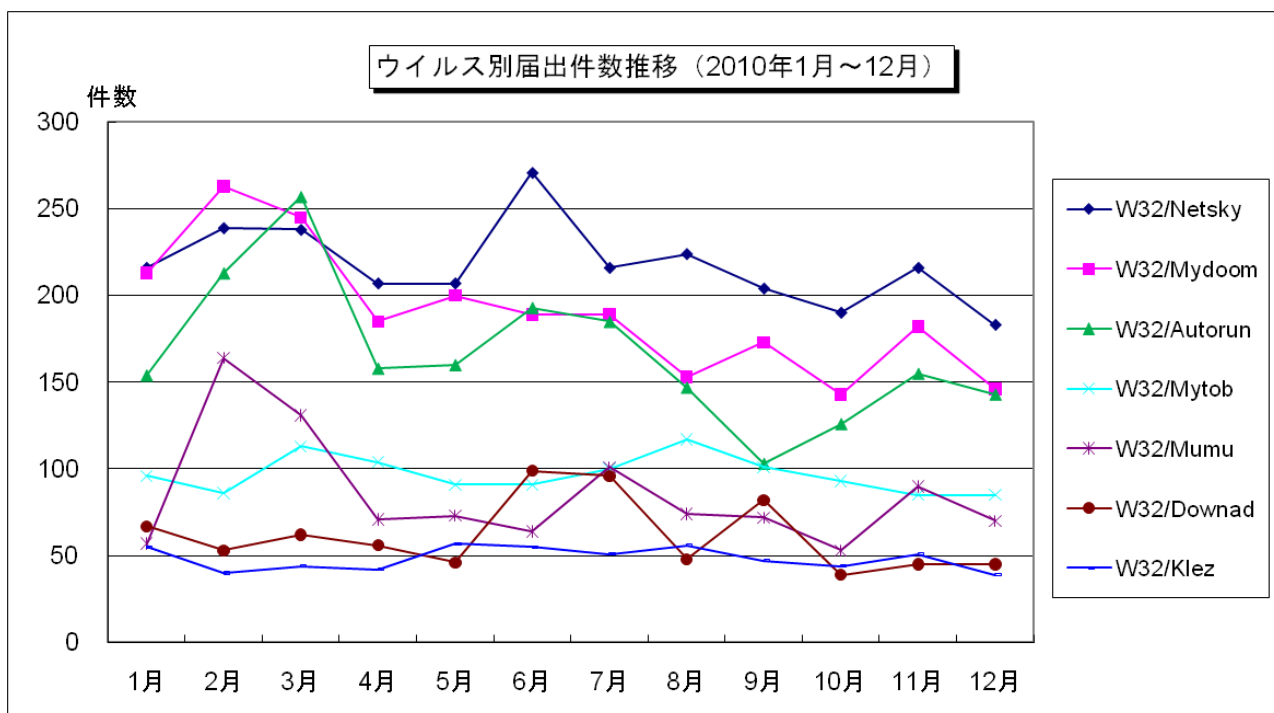


図 2-2 : ウイルス別届出件数の推移

■お問い合わせ先

IPA セキュリティセンター 花村/加賀谷
 Tel:03-5978-7591 Fax:03-5978-7518
 E-mail: isec-info@ipa.go.jp